ニューズニュース三重大

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER

25号

'02.3.29

三重大学広報
ネットワーク
運営室

表紙イラストレーションタイトル『花束と花篭』
表紙デザイン

岡田　博明
（三重大学教育学部助教授）

　このイラストレーションは、三重大学のある三重県に古くから伝わるテキスタイルパターンの『伊勢型紙』をモチーフに製作しました。
　この型紙のタイトルは『花束と花篭』で、竹篭に入った色々な花束をモチーフにした1758年（宝暦8年）に製作された『伊勢型紙』です。イラストでは新緑と桜色で統一し春らしい色彩に纏めてみました。

The cover page design is entitled：“Bouquets and Flower Baskets.”
Designer：Hiroaki Okada
(Associate Professor, Faculty of Education, Mie University)

The cover page illustration was produced by using, as a motif, a traditional textile pattern called “Ise Pattern”. This is a Pattern typical to Mie Prefecture where Mie Univresity is located.
This Ise Pattern is entitled “Bouquets and Flower Baskets” and designed by using, as a motif, various kinds of bouquets. It was produced in 1758 and unified in the new green leaves and pale pink, appearing to be very spring.

目　　次
Contents

「２００１－２００２産学連携活動の回顧ー三重大学の改革と新産業創造への貢献を願ってー」

2001－2002 the Retrospection of Activitise Carried out by Industrial World and Universities.

－Hoping for the Contribution to Mie University Innovation and Creation of New Industry－

1. 三重大学の産・官・民交流レポート・・1
—連携はしなやかに，速やかに，偏らずに—
地域共同研究センター長　柏村　直樹
A Report on Mie University-Industry・Government・Citizen Cooperation : more flexible, speedy, and extensive activities are wanted

2. 三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの誕生から１年・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
SVBL長　加藤　忠哉
The 1st step of Mie University Satellite Venture Business Laboratory

3. 三重ティーエルオーの設立・・5
副学長（研究担）　菅原　　庸
Establishment of Mie Technology Licensing Organization

4. 三重大学の公共放送への参加と地域連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
教育学部教授　村澤　忠司
Participation in the Public Broadcasting System

5. わかりやい・やさしい全学生・教職員・市民ホームページの確立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
学長補佐・広報・ネットワーク運営室室長　清水　幸丸

6. ２００２みえ研究開発シーズ・ニーズ交流会レポート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
地域共同研究センター長　柏村　直樹
学域共同研究センター（科学技術子コーディネーター）　河野　　廉
The report of New Year Exchanging Meeting of research-and-development Seeds and Needs in Mie

三重大学の産・官・民交流レポート
ー連携はしなやかに、速やかに、偏らずにー
A Report on Mie University—Industry・Government・Citizen Cooperation：more flexible、speedy、and extensive activities are wanted

最近の三重大学における産学連携のキーワードは、「生き残り戦略」や「法人化対策」から、漸く「新産業創造」や「技術移転」、「ベンチャー起業支援」に変わってきた。市民の皆様や地元企業の方には、「自己中心型」の国立大学が「ほんとに変わるのかな」と訝る向きも多いだろう。この特集では、最近の産学連携における本学の活動をレポートしながら、意外な展開を見せ始めている新世紀の状況の中で、大学のおける産・官・民交流を読者と共に考えてみたい。

この数年間の本学の産学連携は、全国的な「連携活動」の高まりにあって、　いろいろな新しい試みが試行錯誤的に実行されてきた。従来、例えば、企業との「共同研究」、自治体との共催「学術講演会」、市民が楽しむ「大学祭」など、産・官・民のそれぞれと大学が個別に連携しようというポリシーであった。実際、国立大学における科学や技術の質と量は、９０年代の「キャッチアップ」運動と、このような個別の連携でかなり進展した。しかし、新世紀になってからの不景気と最近の「同時多発テロ事件」によって、大学に求められる産学連携運動は、急速に「官・学のスリム化」、「地方分権協力」的ターゲットから、「新産業創造への直接貢献」へと変わってきた。幸か不幸か、かつて21世紀委員会がその智恵を絞って大学の理念を作り上げた時の「ナイーブな知的好奇心と科学の役割」論に替わって、また、三重大学自身が醸成してきた「環境」に替わって、政府主導または地元の要請に基づく活動が現れてきた。「かたち」となって現れたものを挙げると、**「サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー」、「三重ＴＬＯ」、「インターンシップ」、「出前講義」、「大学の広場」、「全教官ホームページ」、「各種内外の交流会」**などとなる。詳細については、本稿の後に掲載されるのでご覧いただきたい。

最近本学地域共同研究センターを訪問した豊田章一郎トヨタ名誉会長（写真１）は、当センター共同実験室において昼夜兼行で実験を続けるトヨタコンポン研究所派遣の外国人研究生や大学側と歓談し、自動車用新電池の開発もさることながら、日本のライフスタイルや産業基

In the meeting, recent developments in the relationship of industry, government and citizen cooperation with Mie University were briefly summarized. Emphasis was placed on describing several important achievements by Mie University, which included the establishment of a venture business laboratory, a technology licensing organization, a lecture delivery system, an undergraduate internship, a university television program and prefecture-wide conferences on R&D seeds and needs. In an introductory remark, general trends of cooperation between universities and government in Japan were mentioned, pointing out a shift taken by national universities to meet policies of agency systems. National universities have been looking at reforming and reorganizing local universities to enable them to take on possible roles which will impact on the creation of new industries and technology and the transfer of knowledge. The past several years' achievements and activities of Mie University were next summarized, introducing local or central government-guided ideas and policies, rather than university vision based strategies. The resulting activities, hence, are now heading for a direct return to regions, such as patent transfers to small and medium-sized industries in Mie Prefecture, as well as contribution and assistance in local education systems. A recent visit by Emeritus President Shouichiro Toyota of the Toyota Automobile Company to Mie University and a recent tripartite talk by Mrs. Kitagawa, Yatani and Okuda, on venture creation and the opinions of various regions and universities were metaphorically and symbolically described. The present status and author's opinions about TLO, patent properties of Mie University and the effect of reform of university systems on industry-university cooperation were given. The author concludes the need to establish flexible, speedy and extensive systems in universities by novel devices and brave decision-making and asks readers to contribute by proposing their own concrete ideas and means for realizing them.

盤にインパクトを与える大きくて新規な研究をこの三重大学でやってもらいたいと述べた。一方、昨年の1月に三重県・（財）三重県産業支援センター・本学が主催したベンチャーカレッジの県知事、三重大学学長、トヨタ会長鼎談（写真２）でも、中部や日本全国の大きな流れとは別に三重県独自の、また三重大独自の「ベンチャー精神」が強調された。本学における狭い意味の産学共同研究は、過去10年間、件数では全国国立大学の上位に位置してきた。国の共同研究ビッグプロジェト（先導的研究や特別推進研究）の採択も多い。これらは、学内の優秀な研究者、大手企業が学内研究者と個別に結ぶ基礎研究や三重県が企画したユニークな県内高等教育機関との純粋科学に基礎を置く研究助成に依るところが多い。

政府、地方自治体等によって、昨年から急速に全国的に展開されている大学発ベンチャー起業支援や大学技術移転機関活動の加速促進は、「遠山プラン」や「地方大学の統合・再編成」とは直接関連せず、むしろ地場産業や中小企業の活性化を標的としたものであり、本学では、まったく今後の課題となっている。地域共同研究センターやベンチャーラボラトリー、および本学の他の共通施設が一刻も早く、本学研究者や地元小企業の「ベンチャー精神」豊かな科学技術者に開放されることを祈りたい。中小企業総合事業団と共催して行ったはじめての三重県全域の研究開発交流会については、別稿をご覧いただきたい。

苦戦している大学ＴＬＯについては、今後も全国的に整備が続くと思われる。本学主導で設立された三重TLOは別稿をご覧いただきたい。昨年12月の中部産学連携サミット、本年1月に開かれた特許庁等主催の国際特許セミナーでは、大学技術移転機関のあらゆる課題が集中的に討議された。なかでも、大学の研究開発シーズと企業・国民のニーズを仲介するプロの産学連携コーディネータの養成が求められ、早速本年度補正予算で、本学には常勤の30代の科学技術コーディネータ（産学連携担当）が文部科学省から派遣され、地域共同研究センターを中心に、プロジェクトの立案、三重ＴＬＯ支援、等のあらゆる産学連携活動に従事している。現在では、多くの産学共同研究プロジェクトは人件費を有し、コーディネーターを頻繁に大学内に派遣し大学研究者と交流している。三重大学キャンパスでも今後は「コーディネータ間の切磋琢磨、競争」を恐れず、「協働」を疎まず、技術交流と移転の成果があがることを切に期待したい。

大学の知的財産は多様で継続的である。科学技術の新知見と人材はその最たるものであり、三重大学の場合も世界的視野の貢献は論をまたない。「役に立たない基礎研究が多い」という誤った現状認識はさておき、地域への直接還元となると、本学のようなサイズと構成の国立大学では、その具体的な行動に欠けると考えられる。地域では、各分野がバランスと相互連携をとることが重要となり、行動と目標に柔軟でキメ細かい配慮をしながら、すみやかに対応することが要求される。本稿に続く「産学連携活動の例：全教官ホームページ；大学の広場；インターンシップと出前講義」がこの機能を果たすことを期待したい。また、さらなる発展のためには、「大学組織」の改変は必須である。「法人化対策」としてでなく、**「研究者と事務方が自然体で相互協力できる、機能性と働き甲斐に富んだ」**大学、それは一寸した工夫と勇気ある決断で創出可能と思えるのだが、賢明な読者諸氏にも、本欄を借りて、産学連携共通施設の改革に対するご提言、ご教示をお願い申し上げて本特集のイントロとしたい。

豊田章一郎トヨタ自動車名誉会長を囲んだ記念写真
（三重大学地域共同研究センター前、平成14年2月19日撮影、前列左から2人目、豊田章一郎氏）

津市都ホテルにおけるベンチャーカレッジの「鼎談」から

（平成13年1月20日撮影、壇上左から、矢谷三重大学長、奥田トヨタ自動車会長、北川三重県知事）

筆者プロフィール
柏村　直樹
地域共同研究センター長
生物資源学部教授（農学博士）
1939年生

Profile
Naoki　KASHIMURA
Director of Mie University Cooperative Research Center
Professor、Faculty of Bioresources
Doctor of Agriculture
Born in 1939

三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの誕生から一年
The 1st step of Mie University Satellite Venture Business Laboratory

三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（SVBLと略）は、多数の大型機器を整備した全学共用大型設備として、平成11年度第2次補正予算により設置が認められ、平成13年4月には建物が完成して本格的な活動に入りました。本ラボラトリーの設置の目的は、三重大学大学院生を中心に、ベンチャー・ビジネスの萌芽となる独創的な研究開発を推進するとともに、新産業創造に寄与する高度専門的職業能力を持つ人材を育成することであります。もちろん、大学院生などが新しい発想で活発に起業をすることが、停滞する経済社会の活性化につながることから、全学部にわたる若手研究者、学生による起業化を奨励・援助することもその役割の一つであります。

5年間程度の間は、当面の主研究テーマを「先端エコ・エネルギー要素技術の研究開発」に定めて、建物と研究設備の整備が行われました。その研究内容を5つに分類しております。①太陽電池・小規模風力発電システム、②燃料電池・リチウム電池などの二次電池、③蓄熱式電力貯蔵システムと省エネ技術、④生物資源高度利用とゼロ・エミツション及び⑤環境ホルモンの検出とその除去法の研究開発を実施することが出来ます。もちろん、管理運営は全学委員会があたりますが、実質的には、これら主研究テーマに関与する指導教官が施設の実質の運営責任を分担して、それぞれ①管理運営、②広報、③財務、④研究、⑤施設利用、⑥教育、⑦渉外の7つのワーキンググループに所属して任務を行っています。さらに、非常勤事務官を雇い入れて、事務を担当している工学部の事務負担の軽減にも配慮を致しております。初年度は主研究テーマに関連して35研究課題がSVBL施設を利用して実行されています。

また、一般研究テーマの公募およびベンチャーを目指す起業計画あるいは新しいビジネスモデルの提案を全学から受付けて、審査によって主題研究テーマと直接関連の無い提案にも研究費の配分を行いました。たとえば、人文科学系の教官によるWebを用いた教育システムの構築などはその例であります。残念ながら大学院生が具体的に起業化を目指すような能動的な提案はまだなされていません。SVBL設置の一つの目標は「大学発ベンチャーの推進」である点から考えると、大学院生や若い研究者の今後の起業化活動に期待しております。

The establishment of Satellite Venture Business Laboratory (SVBL) of Mie University was officially approved by the government and started its operation on a full scale in April 2001. The purpose of the SVBL is to push forward research and development projects of Graduate School in order to promote new businesses. It is also its aim to train and bring up creative personnel grasping an advanced professional knowledge.

We want to nurture young researchers and encourage them to put forward unique ideas and propositions to explore new research fields. By this way, we try to bring up a promising generation endowed with professional proficiency, creative power and strong venture spirit.

We conduct our research and development in the field of advanced technology for energy utilization. We are taking wind power generation as a leading ecological friendly technology to gain energy from nature by using one of the largest returnable wind tunnels in Japan. In addition, our research subjects also include: Secondary batteries for storage of the electric power that is generated by conversion of chemical energy to electric energy; Zero emission technology for environmental protection to utilize electric power much efficiency; Highly-sensitive environmental analysis method for quantitative determination of endocrine chemicals (EDCs) and others.

As the 1st Step of SVBL activity, many kinds of both regional and international seminars and meetings also were held in this year using the laboratory.

▲サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
Satellite Venture Business Laboratory

本年の特筆すべきSVBL活動としては、全国的にも注目を集めている大型風洞を用いた共同研究が産官学全般にわたって多数実施された点であり、単に風車用羽根の研究開発ばかりでなく、風と関わるあらゆる構造体と風との相互作用解析に強力な武器として機能しております。今後もこれら研究設備の有効活用による共同研究推進に力を注いで行きたいと思います。

対外的な活動として「2002みえ研究開発シーズ・ニーズ新春交流会」、「産官学研究交流フォーラムオンキャンパス2002」などの活動に地域共同研究センターと共に参加し、地域産業との交流を図り、国際的には「国際風洞シンポジウム」に協賛し、三重大学SVBL講演会としてノルウェーの産官学NPO研究組織であるSINTEF研究所の「Dr. J. Hetland講演会」などを開催して国際化に努力してきております。また、SVBLには毎年10名の「三重大学SVBL非常勤研究員（ポスドク）」、2名の「独創的研究開発推進のための外国人研究員招聘」、および2名の「海外研究開発動向調査等派遣」の枠が確保されており、多数の外国からの研究者との交流が行われています。

筆者プロフィール
加藤　忠哉
工学部教授（工学博士）
三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー長
1938年生
Profile
Tadaya　KATO
Professor, Faculty of Engineering
Director, Satellite Venture Business Laboratory
(Doctor of Engineering)
Born in 1938

三重ティーエルオーの設立
The establishment of the Mie Technology Licensing Organization

テイーエルオーＴＬＯは，大学や研究機関などの研究成果や新技術を産業界に移転するための橋渡し役となる組織のことで，Technology Licensing Organization を略したものである。（株）三重テイーエルオーは，三重県内の大学や高等専門学校等の研究者が主な出資者となる会社であり，研究者のもつ研究・技術等のシーズを評価し，その中から実用性の高いものについて，権利を譲り受け，それを特許化・権利化し，企業等に移転し，利益を得ようする組織である。得られた利益は，権利を委託した研究者への収入，大学などへの研究費還元，ＴＬＯへの収入として配分されることになる。ＴＬＯの第一義的な事業は特許移転活動であるが，研究者と社会との連携のための各種の相談，コンサルティング，情報発信などのリエゾン活動も併せて行なう「リエゾン一体型ＴＬＯ」として構想されている。

三重大学では，ＴＬＯを全学レベルで審議するために，平成13年７月に三重大学技術移転機関設立準備委員会を設置し，それと平行して，地域共同研究センターの産学連携コーディネーター・客員教授・センター教職員等の協力のもとに，ＴＬＯの形態や事業等の具体的な検討を続けてきた。大学の研究・技術成果を積極的に活用して県内を中心とする産業技術の活性化・発展を支援することにより，地域をとりまく産官学民が一体となった活気とゆとりある社会の構築に寄与するとともに，大学の活性化を促進することがきわめて重要であり，ＴＬＯ設立構想の過程で三重県や津市などの地方自治体・公共団体にも連携・協力を要請してきた。とくに，三重県では中小企業が大部分を占めており，中小企業やベンチャービ

Mie TLO is an organization for the licensing and transferring of new technology, technical knowledge (know-how) and research products in universities. Mie TLO also supports research developments, technical consulting, enhancing relationships between researchers in universities and companies and creating new technology for the next generation.

Mie TLO was established in February,2002, with activities commencing from April,2002.

Mie TLO will undertake on the following activities.

(1) Technology Licensing
- Development and evaluation of technological seeds
- Offer of patent information
- Acquisition and licensing of property rights on intellectual activities (patent applications,etc.)
- Allotment of royalties to inventors

(2) Support for development of research and study conducted by researchers
- technical consulting
- general consulting
- intercession with research and study for companies
- technological seminars, training and lectures
- technology evaluation and assessment

(3) Support for interchange between universities and enterprises
- Offer of research seeds (information) to companies
- Offer of research needs (information) to researchers
- Support for interchange between researchers and companies

Mie TLO has an intermediary relationship between universities and enterprises, as well as local public entities, developing basic technologies for establishing new industries and then contributing to the creation of new fields and a new sense of value.

ジネスなどとの連携を重視し，新技術開発・事業立ち上げによる新産業分野の創出をきめ細かく支援することも方針のひとつとしてあげられている。また，既存の学内組織との協調して，本ＴＬＯが技術移転などにおける対外的な窓口機関としての役割を担うことになる。

三重大学技術移転機関設立準備委員会において検討・審議の後，平成14年１月に（株）三重ティーエルオー定款の認証をうけ，出資者を学内の研究者を対象に募集し，２月５日に資本金1000万円の株式会社として創立総会を開催し，登記手続きを行った。出資者は三重大学の現職教職員にとどまらず，教官ＯＢや三重県内の高等教育機関などの研究者にも広げ，三重地域の研究・技術シーズを広く地域の企業に活用・還元することを目指しており，４年制大学のみならず，高等専門学校，短期大学にも協力を要請している。そのため，６月頃に増資のため，出資者の募集を実施する予定である。運営は，会員企業・地方公共団体・公設研究機関からの会費収入とリエゾン業務による収入および国からの補助金収入を基盤として運営することになっており，文部科学省・経済産業省の承認後，営業を開始する予定である。

三重大TLO設立へ
研究や技術企業に
4月の営業開始目指す
（伊勢）
（日経）

（株）三重ティーエルオーは以下の事業を行う。

(1) 技術移転事業
- 技術シーズの発掘と評価
- 特許情報の提供
- 知的財産権の取得とライセンシング
- ライセンシングによるロイヤリティの発明者への還元

(2) 研究開発支援事業
- 技術相談・技術指導
- コンサルティング
- 調査研究の斡旋・受託
- 技術研修・講習の開催
- 技術評価・アセスメント

(3) 交流支援事業
- 大学などの研究開発情報の産業界への提供
- 産業界のニーズ情報の大学などへの提供
- 産業界と各分野の研究者との交流の支援

今後の大学では，研究・教育のみならず，社会貢献がきわめて大きな比重を占めるようになり，大学のもつポテンシャルを社会に対して発信し，かつ社会のニーズにも即応しうる態勢を構築することが不可欠であり，ＴＬＯは，このような課題に対応するもののひとつとして位置づけられる。三重ティーエルオーが大学と地域の公共団体や産業界等との建設的な関係の媒体となり，新たな価値の創造に貢献することが期待されている。

筆者プロフィール
菅原　庸
副学長
農学博士
1940年生

Profile
Isao　SUGAHARA
Vice President
Doctor of Agriculture
Born in 1940

三重大学の公共放送への参加と地域連携
Participation in the Public Broadcasting System

平成13年12月の第一月曜日から、「三重大学の広場」のタイトルの放送が開始された。まさに、地域の住民への三重大学のナレジの開放である。 テレビの画面から発信される情報量は他のいずれのメディアもかなわない多くの情報を地域の方々に提供している。情報を共有することは、大学が地域と連携をする上で欠かすことができない本質的な地域連携システムである。

地域の住民の望む情報を住民と一緒に作り出し、かつ、活用することを、大学人が支援していくことが地方大学に求められる。

本当に役に立つ情報を求めかつ活用することによって、社会生活をより快適に営み、精力的な企業活動を継続し、また、生涯学習を通して新たな生活へと発展していく。

今回の三重大学が地域社会に提供していく「三重大学の広場」の放送は、これらの意味において、まさに情報化社会における大学の地域への貢献であり、地域住民との協働の作業である。

「三重大学の広場」に使うメディアは、一般の公共放送とインターネットを融合したシステムである。情報を提供するメディアとして一般の放送用のテレビを使い、逆に、視聴者からの提供する情報メディアとしてインターネットと電子メールを使うことにしている。一般に、映像を長時間、視聴することは受信者にとって精神的に大きな負担になると言われている。そのために、パソコンなどの画面を長い間見ることは期待できない。これらの問題を解決するために大きな画面により、豊富な情報を提供できるテレビ画面を使うことは非常に有効である。

「三重大学の広場」は、2系統の双方向の情報送受信システムからなっている。一つ目の系統は、商業放送の事業者の協力により、**ケーブルテレビ**での情報提供（大学→視聴者）と大学独自の電子メール（視聴者→大学）によるシステムである。二つ目の系統は、大学自信の独自による**インターネットテレビ**からの双方向の情報提供である。このシステムは、視聴者が、**どこでも、いつでも、必要なとき**に、大学の「三重大学の広場」へアクセスすることにより、前述のテレビ放送と同じ内容を、インターネットを通してパソコン上で視聴できる。いわゆる、オンデマンドシステムを構築している。また、必要ならば、専用の電子メールで大学側に問い合わせることができるシステムである。

We started to broadcast "Hiroba of Mie University" over the Z-TV network from the first Monday in December, 2001. The aim is the ‘liberation’ of Mie University’s knowledge.

Recently we developed an information network system, responding to all requests made by people living in the vicinity of Mie University. "Hiroba of Mie University" shows how we utilize the Z-TV cable broadcasting network system to have Mie University lecturers and professors disseminate information. We also set up an on-demand system, offering academic news and information about the university over the internet, allowing for the interested public to discuss with members of the university any issue, so that information and knowledge can be jointly shared.

A typical episode of "Hiroba of Mie University" is composed of the following 4 elements: a famous proverb; lectures about important issues; public information; and a presentation about Mie University.

The broadcasting schedule is every Monday to Friday on Z-TV’s Channel 15. The homepage is found at URL http://www.mie-u.ac.jp/tv. The e-mail address is miedaitv@ab.mie-u.ac.jp.

Z-TV Broadcasting Schedule:	
Monday, Wednesday and Friday	17：00～18：00
Tuesday and Thursday	14：00～15：00

▲地域の方々との番組作り

「三重大学の広場」の放送内容の構成は、“今月のひとこと”、“講演・講義”、“大学紹介”、“大学からのお知らせ”の4つの番組部分から成りたっている。“今月のひとこと”の内容は、三重大学になじみのある方やご活躍されている方の講話を提供している。また、“講演・講義”の内容は、この放送内容の主目的であり、地域住民の知りたい事柄や解決を求められている問題を少し学術的・専門的な説明を加え解説していく。時には、地域の方々にも講師になって頂き、住民と研究者が協働で作っていく番組内容である。現在は、“テーマ「子供の成長と子育て」（平成13年12月～平成14年7月）のもとで、小児科医や教育研究者が中心になって、子供の誕生から小学校入学までの状況をリレー式に解説をしている。放送内容に、動画、写真、データ等を取り込んで、学術的な解説を加えることにより、視聴者の理解に役立つように工夫された番組作りであることは、意見や要望からも理解できる。今後のテーマとして、

自然環境と農林業の発展、
中小企業者への情報技術の提供、
親子で物作り、
家庭教育と学校教育
高齢者の生活と福祉

等の内容が予定されている。放映内容を、多分野・多方面に広げることによって、三重大学の社会的な貢献への期待に応えるようにすることが求められている。

放送時間は、全体で60分の構成になっていて、特に、講演・講義が番組の中心であり約50分間の時間をとっている。民間のケーブルテレビ会社、Ｚテレビの15チャンネルで、放送している。

「三重大学の広場」の放映

・テレビ放映　Ｚテレビのコミュニテーチャンネル
（15チャンネル）
放送日　月・水・金（午後5時～6時）
火・木　（午後2時～3時）

・インターネットテレビ（オンデマンド方式）
ＵＲＬ　http://www.mie-u.ac.jp/tv
メール　miedaitv@ab.mie-u.ac.jp

▲三重大学の放送開始の挨拶

▲三重大学の紹介の場面

筆者プロフィール
村澤　忠司
教育学部教授（理学博士）
1940年生

Profile
Tadashi　MURASAWA
Professor, Faculty of Education
(Doctor of Science)
Born in 1940

わかりやすい・やさしい全学生・教職員・市民向けホームページの確立

The establishment of an easy-to-understand website for Mie University's students, academic staff and citizens

インターネットは、世界規模・ＩＴ革命の中、全ての人が利用できる環境を目標に発達してきました。その発達の背景には、コンピュータと通信の統合があります。それは多量の情報流通を可能にする世界的高速ネットワークの確立でした。インターネットの中は、地球規模でたくさんの人が作った情報が自由に流通する世界です。

三重大学広報ネットワーク室は、次のような政策を持っています。

1. 全学生・教職員を対象とした学内情報の提供
2. ネットワーク安全管理・高度化の推進
3. 世界および全国大学・地方自治体・一般市民・NGO・NPOとの連携による情報化地域社会の推進

高速情報流通を背景として多数の企業、官公庁、個人が、電子メール・ホームページを持つようになりました。これは、双方向と情報提供者がホームページに情報を置くと多数の人がアクセスする（ユニキャストとブロードキャストの融合した）コミュニケーションモデルです。ここでは、個人が直接情報を得たり、その情報に対して働きかけができる自由なコミュニケーションの場でもあります。大学の持つ本質はインターネットの活用により変わらないと思われますが、その活用は競争力を高め、個性輝く創造的な学術研究・教育を推進する新しい大学を築くものです。

大学におけるホームページの活用について例をあげます。

１．Ｗｅｂをベースにしたセルフ・サービス環境整備

学生情報サービス向上：図書・学術情報、教育資料、事務的機能（学籍関係、履修成績関係）をＷｅｂ上で提供し、学生が俊足にアクセスできようにし、学部等、教職員に関する情報をさまざまな方法で提供し、強力なサービス環境を構築します。

２．インターネットを利用したコミュニケーション環境整備

大学が、学生・大学構成員、これまで大学におられた方

The Internet, thanks to IT, has revolutionized the computer and communications world like nothing before. The Internet is at once a world-wide broadcasting system, a mechanism for information dissemination, and a medium for collaboration and interaction between individuals and their computers without regard to geographic location. It is the establishment of a worldwide high-speed network which has made abundant information circulation possible. The Internet is a world where information provided by many people around the globe circulates freely.

The policies of the Network Steering Office of Mie University are as follows:

1. to offer information to University students and academic staff.
2. a pursuance of how to promote growth of the network safely and with supervision.
3. the promotion of an information-oriented community with the cooperation of nationwide and foreign universities, local self-governing bodies, citizens, NGOs, NPOs.

Many enterprises, government and municipal offices and individuals, have reached the point where they possess websites and e-mail addresses with high-speed information circulation as the impetus. The communication model is a bi-directional one,

（元教職員、学生）、学外へタイムリーに情報流通を行う。また、相互間の意見、要望、問い合わせ、応答をメーリング活用によって行うことにより大学内の業務情報提供と学部、学外などの枠を超えた研究・教育の交流・協力・連携の活性化を図るイントラネットを構築したコミュニケーション環境を作り出す。
ほかにも現在三重大学においても色々な試みがされています。

新しい大学、実現のためにインターネットをとりいれ、安全で使いやすいシステム導入と一元管理された責任組織を整備しつつあります。

where the information provider posts the information on a website and many people then have access to it, (a fusion between uni- casting and broadcasting). It is a place to freely communicate and one where the individual obtains information directly, whose approach and response to the information is not restricted. It seems that the essence of the university has not changed by making use of the Internet, rather the application has helped to promote a new, shining university with a strong competitive edge, creative scientific research and enhanced the institute’s educational personality.

▲三重大学学生生活紹介ページ

▲教官ポータルデスク紹介ページ

▲学部・大学院・教育研究活動紹介ページ

筆者プロフィール
清水　幸丸
三重大学学長補佐
広報ネットワーク室長
1940年生

Profile
Yukimaru　SHIMIZU
President Aide of Mie University
Supervisor of the Network Steering Office of Mie University
Doctor of Engineering
Born in 1940

2002みえ研究開発シーズ・ニーズ交流会レポート
The report of New Year Exchanging Meeting of research-and-development Seeds and Needs in Mie

平成14年1月11日、津市内のホテルグリンパーク津およびアスト津において、2002みえ研究開発シーズ・ニーズ新春交流会を開催しました。この10年あまりの間で、大学と社会のあり方が大きく変化してきており、産官学連携による技術移転、新産業創出、ベンチャー育成等が注目を浴びるようになって来ました。本会も、平成12年度末に中小企業総合事業団が、シーズ・ニーズ交流とマッチングを目的とした交流会開催を公募し、三重大学と鈴鹿工業高等専門学校が共同で応募し、採択されたプロジェクトです。今回の交流会には、三重大学地域共同研究センター、三重大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、鈴鹿工業高等専門学校、中小企業総合事業団が主催で、世話人会にも、大学、高専、県、民間の方に入っていただき、三重県内のシーズの発信だけでなく企業が欲しているニーズとの交流とマッチングを目指し、当日も約400名と多くの方の参加が得られました。

シーズ展示においては、三重大学からのシーズ展示だけでなく、鈴鹿高等専門学校と企業からの出展もありました。このシーズの見本市である24件のブース展示、55件のポスター展示では、活発な意見交換がなされました。また基調講演には、三重県科学技術振興センター所長、長谷川寛氏と尾鷲市長、伊藤允久氏をお招きし、三重県の産官学連携活動の地域経済振興に貢献するだけでなく、真に“協働”できるような環境作りの整備についてご講演いただきました。

現在注目されている分野であるバイオ、環境・海洋そしてITについて地域振興、新産業創造の観点から観た分科会も行われました。それぞれ「バイオテクノロジーライフサイエンスの展望」「海洋＆環境ビジネスはどうなる？」「三重県のものづくりとITはどこへ」の3テーマについて、招待講演に始まりシーズのプレゼンテーショ

The New Year Exchange Meeting of Seeds and Needs in Mie was held on January 11, 2002, at Hotel Green Park Tsu and Ust Tsu in Tsu, Mie. The fundamental themes of this meeting were not only the dispatch of seeds from Mie prefecture, but also matching the needs of industry. About 400 people attended this meeting.

There were 24 booth presentations and 55 poster presentations. Three special lectures were presented entitled: “A View of Biotechnology Life Science”; ” What is the Situation of the Sea & Environmental Business?”; and “What is the Position of Monodukuri and IT in Mie Prefecture?” Each discussion, which started in the invitation lecture, advanced to the presentation and the panel discussion of seeds.

This was a great public relations event, having encompassed three fields and thanks to the cooperation of the school-industry organization, technology transfer and cities. Pleasant talk, leading to a deep exchange and understanding could take place in the evening session after supper.

At this meeting, the precious exchange of information and knowledge in relation to seeds and needs could take place, through the support of experienced researchers’ considered study and opinions. We were able to discuss how best to utilize, from now on, the results of our research in the industrial world.

◀イヴニングセッション

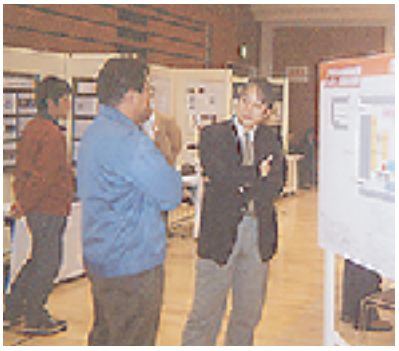
▲分科会

ンおよびパネルディスカッションへと進行し、白熱した討論がなされました。招待講演には、各テーマに沿って、日経BP社バイオセンター長　宮田満氏、マリンバイオテクノロジー学会会長　伏谷伸宏氏、㈱半導体エネルギー研究所代表取締役 山崎舜平氏に講演いただき、会場は満員となるほど好評をいただきました。

また三重県では、「三重のくにづくり宣言」においても、医療・健康・福祉産業を含む新規成長産業の創出に向けた環境整備に取り組んでおり、「メディカルバレー構想」として、医療・健康・福祉産業を戦略的に振興することにより、三重県の地域経済を担う新たなリーディング産業の創出と集積を図るとともに、医療・健康・福祉に関連した、質の高い製品・サービスを供給できる地域づくりを推進することを狙いとしています。ランチョンセミナーでは、この「メディカルバレー構想」を展望にいれた新産業について、企業等よりディスカッションいただきました。

最後に、イブニングセッションとして、産学連携・技術移転・市町村の3分野・機関の広報展示会をつくり、夕食後の歓談と休憩を兼ねて、交流と理解を深めていただきました。

本交流会の講師や研究者の人たちがもたらしたシーズ・ニーズの情報や知見は、これまでの経験と学習と見識によって裏付けされた貴重なものが多く、今後、産業界への展開や指針に有効利用していただけることを、祈念いたします。



▲シーズ交流

▲ブース展示会場

筆者プロフィール
河野　廉
科学技術コーディネーター
（地域共同研究センター）
医学博士
1968年生
Profile
Yasushi　KAWANO
Science and Technology Coordinator
Doctor of Medicine
Born in 1968

筆者プロフィール
柏村　直樹
地域共同研究センター長
1939年生
Profile
Naoki　KASHIMURA
Director of Mie University Cooperative Research Center
Born in 1939

平成14年3月
編集発行
三重大学広報
・ネットワーク
運営室
http://www.mie-u.ac.jp/